

## 「生涯学習・社会教育関係職員研修講座（三八地区研修）」

日時：平成27年7月7日(火) 会場：八戸市福祉公民館

### 1. 講義・事例発表

#### 「青年層を中心とした活動及び社会参加活動を推進するために、行政ができること」

生涯学習・社会教育関係職員研修講座（三八地区研修）が7月7日（火）、八戸市福祉公民館で実施されました。約20名の社会教育関係職員が参加し研修が行われました。午前中の講義では、当センター北澤茂社会教育主事よりパワフル AOMORI 創造塾での実践活動を基に講義していただきました。事例発表では Misawa Art Project 代表田村宣喜氏より三沢市での活動事例を発表していただきました。受講者は真剣な表情でお話を聞いていました。

社会参加活動推進のための取り組みで行政ができることを3つ挙げていただきました。

【①きっかけをつくること②つなげること③認めること】

講義では3年間の取り組みで、人集めで苦労したこと、様々な講師の方々に協力していただいたこと、パフォーマンスライブなどのイベントを行ったことなど、主に課題と成果を取り上げ、講義していただきました。

#### 【北澤社会教育主事の講義】



青年層の動向についてデータを基に発表していただきました。社会の役に立ちたいと思っている若者が7割近くいること、子どもを介して地域貢献したい青年層が多いことなど、近年の傾向と特徴を説明していただきました。

青年層が社会参加活動をする際の注意点（3つ）やパッケージ型支援などについてお話ししていただきました。

#### 【注意点】

- ① 3ヶ月先の見通しがついたら行動できること
- ② 若者の共感を呼ぶテーマと楽しげなデザインの設定
- ③ 2人いれば活動できること

#### 【田村宣喜氏の事例発表】



#### 【行政が関わるパッケージ型支援】

- ・ ワークショップの研修（知識の習得と仲間づくりのため）
- ・ 一緒に行動する指導者の育成
- ・ お金、場所、機会の提供とバックアップ
- ・ 行政職員と一緒に参加（行政職員は若手が多く、信用性が高いため）

※ 楽しむという意識で参加することが大切

※ パッケージ型支援は一度成功すると次への可能性が広がる

## 2. 講演：「子どもをまん中に置いた組織活動の活性化と行政、家庭、地域の役割」

午後の講演では、プロジェクトおおわに事業協同組合（鰐 COME）副理事長の相馬康穂 氏より地域活性化のための様々な取り組みについて自身の経験を基に講演していただきました。受講者は時折、笑顔を見せるなど和やかな雰囲気の中でお話を聞いていました。

### 【相馬康穂 氏の講演】

講演では①コミュニティビジネス②ふるさと教育③ホスピタリティの3つの柱についてお話をいただきました。

ふるさと教育では特に「おおわに元気隊キッズ」の活動例をいくつか挙げ、地域との関わりについて説明していただきました。子ども達の野菜作り体験では、野菜作りだけではなく、実際に販売などのビジネス体験をさせることで地元地域の良さを子ども達に気づかせるきっかけづくりを提供されていました。相馬 氏の強い信念や思いを感じた講演でした。



### 【 プロジェクトおおわに事業協同組合（鰐 COME）活動例 】

- ① **コミュニティビジネス**の実践
  - ② **ふるさと教育**（第4の教育）の実践
  - ③ **ホスピタリティ世界一**を目指す（マニュアルにない感動の提供）
  - ④ 大鰐町元気隊（地域資源丸ごと活用など）
  - ⑤ キッズグループ（3つの体験）（1 清掃活動 2 被災地支援 3 野菜作り）
- ※ 産直の会など3つの会を組織（継続的なまちづくり・まちおこし）など
- ⑥ 鰐 COME 祭り（手作り花火大会・鰐コンパティー・万国ホラ吹き大会）など

#### 【子ども達との関わりで気をつけていること】

- ・ 子ども達に地元地域の悪口を言わないこと
- ・ ポジティブな話を子ども達にすること
- ・ 子ども達に**気づき**を与えることなど

### 〈 講師プロフィール 〉



#### 田村 宣喜 氏（ Misawa Art Project 代表 ）

東北大学大学院農学研究科（農業経済学）修了。三沢市役所政策調整課へ入庁。産業政策課、税務課を経て現在は広報聴課勤務。任意団体「Misawa アートプロジェクト」設立し、「こども屋台村」・「ハロウィン～お化け屋敷&妖怪バー～」・「子どもカメラマンの夏！」「Misawa 子ども図書館」など様々なイベントを手がけている。



#### 相馬 康穂 氏（プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長）

青森県商工会青年部連合会会長、全国商工会青年部連合会副会長などを歴任し、現在、プロジェクトおおわに事業協同組合（鰐 come）の副理事長を務めるとともに、弘前大学や青森公立大学においても講師を務めている。